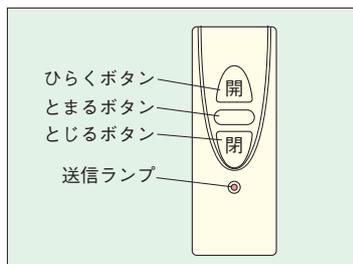




操作方法

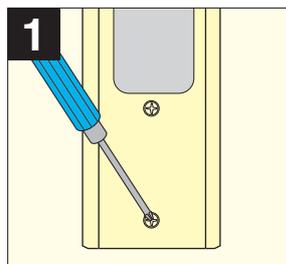
スイッチを操作する時はサッシのクレセントを掛けてください。

電動開閉方法

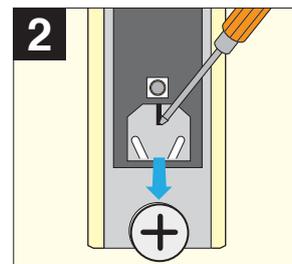


- ① 開ける時は「ひらく」ボタンを押します
- ② 閉める時は「とじる」ボタンを押します
- ③ 停止させる時は「とまる」ボタンを押します

電池交換方法



- ① プラスドライバーでネジをはずします
- ② 裏カバーを上向きにずらしながらはずします



- ③ ドライバーなどで電池を押し出します。新しい電池をプラス側が上になるようにセットし、裏カバーをネジで止めます

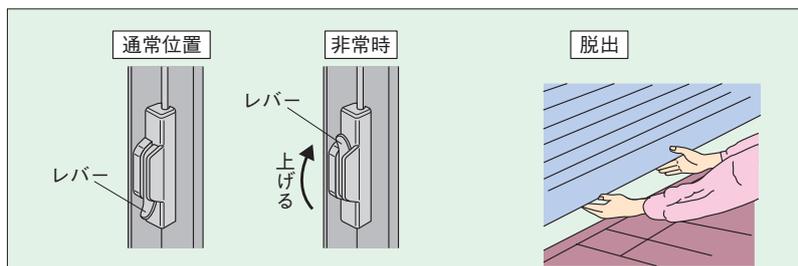
障害物感知システム



下降時に障害物感知システムが作動すると、シャッターは自動的に反転上昇し、上限位置から約10cmの位置で停止します。リモコンの「ひらく」ボタンを押してシャッターを全開にしたあと、障害物を取り除いてください

- 開口部の下部5cmは構造上、障害物感知が動きません。ご注意ください。

非常開放の操作方法



停電などの非常時には、手でシャッターを開けることができます

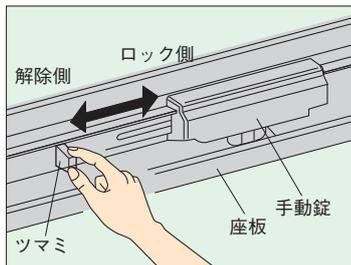
- ① 室内右側縦枠のレバーを最後まで上げます
 - ② 手でシャッターを開けて脱出します
- レバー操作の際、スラットに触れないでください。シャッター全閉の場合、スラットが急激に巻き上がりケガをする恐れがあります。また、この時、大きな音が発生しますが異常ではありません

復帰方法

- ① レバーを最後まで下げます
- ② 電動で開閉できることを確認します

- この操作は非常時以外には行わないでください。
- 作動確認を行う際には全閉状態ではなく、座板が下枠から上がった状態で行ってください。

手動錠



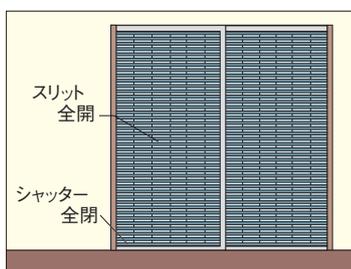
スリットを開けた状態でお使いいただくために手動錠を標準装備しています。故意にシャッターをずり上げられることを防ぎます。

- ① 通常はツマミを「解除」側へずらした状態で使用します
- ② 施錠を行う際は、座板が下枠に接していることを確認したあと、「ロック」側へずらします

● シャッターを開閉する際は、手動錠が「解除」されていることを確認してから行います。

中間停止機能

お好みの中間停止位置へワンタッチ操作できます。あらかじめ「シャッター全閉・スリット全開」の位置に設定されています



操作方法

シャッターが停止している状態でリモコンの「とまる」ボタンを押します。シャッターは一度全閉になったあと、設定済の中間停止位置まで動き、自動的に停止します。(停止位置は多少ばらつく場合があります)

設定方法

- ① シャッターを設定したい位置に移動します
- ② シャッターが停止している状態で、リモコンの「とまる」ボタンをシャッターが小さく上下に動くまで約5秒間押しします

【再設定する場合】

シャッターを再設定したい位置に移動し、②の作業を行ってください

【削除する場合】

シャッターを中間停止位置に移動し、②の作業を行ってください



リモコンのお手入れ

やわらかい布でカラ拭きします。カラ拭きで汚れが取れない時は、水で薄めた中性洗剤にひたした布をよく絞り汚れを落とし、そのあとで水拭き、そしてカラ拭きをして水気を十分に取り除きます。



シャッターのお手入れ

- ①水洗いにより、チリ、汚れなどを洗い落とします。
- ②シャッター下部の水切り部やガイドレール内部に異物等がないか気をつけ、常に清掃します。
- ③水洗いで取れない汚れなどは、中性洗剤(1~2%水溶液)で軽く洗い流します。
- ④表面の汚れを除去し、十分に水洗いをします。
- ⑤最後に、乾いた布で水分を拭き取ります。



死亡事故の原因になります

- シャッターが動いている間は目を離さないでください。人が挟まれるとケガをしたり死亡事故の原因になります。



事故やケガの原因になります

- シャッターの開閉位置に人がいないか、また、ガイドレールや下枠に物が置かれていないか確かめてから作動させてください。



感電の原因になります

- 電装部品は分解しないでください。



事故やケガの原因になります

- シャッター開閉中は、危険ですから触れたり顔や手を出さないでください。とくにお子さまにはご注意ください。
- 風が強い時は窓を閉めて、必ずクレセントをかけてください。窓が飛ばされたり、急激に開閉すると、事故やケガの原因になります。



故障などの原因になります

- 5分以上の連続使用は避けてください。約5分間動作が続くと保護装置が働き自動的に停止します。再動作までには10~20分かかります。
- 雪が積もったり、凍結した状態では操作しないでください。
- シャッターボックスにのったり、はしごをかけないでください。ケガや変形、故障の原因になります。
- シャッターボックス内部には水をかけないでください。